

小学校の校区・新中学校建設候補地について議論

第3回策定委員会 中間報告まとめ

10月に開催した策定委員会では、中間報告を取りまとめ、小学校の適正方策については「現中学校を改修して2校化」、中学校の適正方策については「区画整理区域外への移転新築」としました。また、適正方策と併せて、2校化に伴う校区の学校規模の考え方や新中学校の建設候補地を示しました。

学びに適した学校規模を確保するため、小学校の2校化に向けた校区の考え方は、両校のバランスも配慮し、それぞれの学校規模を概ね800人前後までとしました。また、自治会区域を極力分割しない、通学路の安全確保といった要件も併せて示し、今後、通学区域審議会で具体的な校区割について検討する予定です。新中学校の建設候補地は、周辺の公共施設との連携などを考慮した学びの環境の確保、通学路の安全確保、河合地区の生徒を含めた800人を想定した敷地規模といった要件を踏まえ、



選定しました。候補地については、北体育館の東側(約3万7千㎡)とし、今後、地権者や関係機関との調整を行い、用地取得などに向けた手続きを進めていく予定です。

2校化に向けて段階的に校舎を整備

市は、2校化に向けた各学校の整備について、それぞれ800人規模を前提とし、児童数の推移を見ながら段階的に整備していく方針を示しました。

現森田中学校は、ここ数年のうちに普通教室が不足することが想定されるため、小学校の2校化後も見据え、令和5年度に校舎を増築、新中学校の建設後の令和8年度に大規模な改修を実施していく案としました。

現森田小学校は、現在、プレハブ校舎を含め、約1200人収容の施設規模となっていますが、将

来活用する校舎は改修する一方で、不要となる校舎(プレハブ校舎を含む)の段階的な撤去を行い、児童数に見合う施設規模にしていく案としました。

委員からは、各学校の今後の児童・生徒数のピークを見据えた対応が重要との意見が出されました。次回委員会では、基本計画の大きな方向性が示せるよう各学校の整備方針について、さらに議論する予定です。



コラム4

学校を建てるのはどんな場所がいいの？

中学校はJR北陸本線の西側に建つ？新幹線道路の近くに大きな空地があるけど、そこに建てられないの？

学校を建てるには大きな敷地が必要です。例えば近くにある大きな公園も、何も建っていないと広く感じますが、**学校を建てられるほど大きくありません。**

また、検討している中学校は、森田地区・河合地区の住民の方の要望も踏まえ、**九頭竜川より北側の子どもたちが一緒に通える学校**を目指しています。

令和時代の新しい学校についてみんなで考えていきましょう。

《委員会で提示した資料は森田・河合地区の両公民館に置いてあります。自由にご覧ください。》

北部地域学校新聞

発行者
福井市
教育総務課
(20-5341)
令和3年10月 Vol.1

学校規模適正化に向け議論開始

年度内に整備計画を策定

7月に福井市北部地域学校規模適正化基本計画策定委員会が発足。市北部地域における学校規模の適正化に向けた議論を本格的にスタートさせ、これまでに3回の委員会を開催しました。今年度内にあと2回程度の会議を行い、森田地区の小中学校の整備計画を策定する予定です。



学校の規模適正化に向け、計画策定のため開催した第1回委員会 =7月16日、森田小学校

策定委員会は、令和2年5月の福井市学校規模適正化検討委員会の答申(コラム1)に基づき、福井市北部地域(森田・河合地区)における学校規模の適正化に向けた計画を取りまとめるため発足しました。

委員は、学識経験者、自治会、保護者(PTA)、学校関係者の10名です。人口の推移や土地利用に関する中長期的な展望を踏まえつつ、幅広い視点から議論を行っています。

コラム1

学校の適正な規模って？

福井市学校規模適正化検討委員会の答申で適正な学校規模の考え方が示されています。(R2.5月)

小学校の適正規模

<標準規模>
各学年2~3学級

<許容範囲>

- ・学年ごとに1学級を維持できる規模
- ・各学年3~5学級

各学年6学級以上、全児童数1,000人以上となることは学びの環境において望ましくない!

中学校の適正規模

各学年複数の学級編成が望ましい
1学年1学級20人程度でも許容範囲



<森田小学校>		<森田中学校>	
約28,500㎡	敷地の大きさ	約20,000㎡	
約10,000㎡	建物の大きさ	約6,500㎡	
47教室	教室数	26教室	
1,049人	児童・生徒数	398人	

森田小は全児童数1,000人を超えており、「学校の適正規模」の考え方に基づく規模となるように検討する必要があります。

また学校の建物の大きさを比べてみると、森田小は森田中の約1.5倍の大きさなんです

児童・生徒数の将来予測を実施

森田小 ピーク時 1,450 人超えか

森田地区は、区画整理事業が完了したことによる転入者の増加で、ここ数年、急激に人口（児童・生徒数）が増加しています。

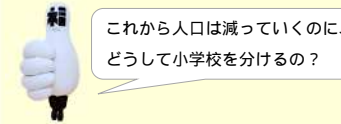
また、北陸新幹線整備に伴う新たな道路（県道福井森田丸岡線）が開通することで、大和田エリアへ行きやすくなるといった利便性向上から、森田地区内において更なる人口増加の可能性があります。

このような情勢をふまえ、今後の児童・生徒数の推移予測を示しました。

予測の結果、最も人口が増加した場合、森田小学校の児童数は2035年に1468人、森田中学校の生徒数は2041年に735人となりました。

一方、河合小学校や灯明寺中学校の児童・生徒数は減少もしくは横ばいになるといった予測結果となりました。学校の整備計画の策定にあたっては、これらの結果をふまえた上で検討していく必要があることを策定委員会に提案しました。

コラム Colum 2 どうして小学校を2つにするの？



これから人口は減っていくのに、どうして小学校を分けるの？

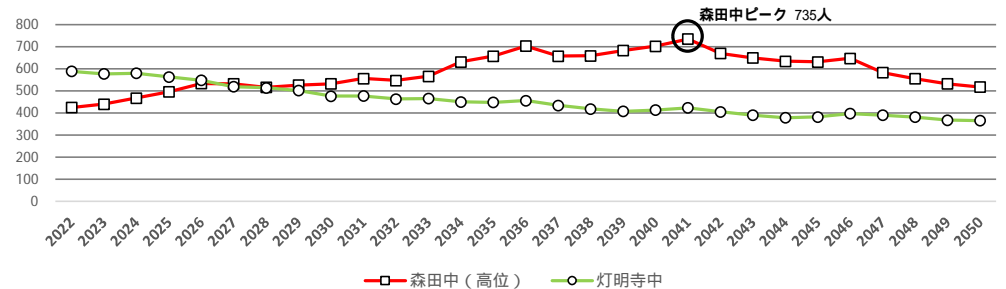
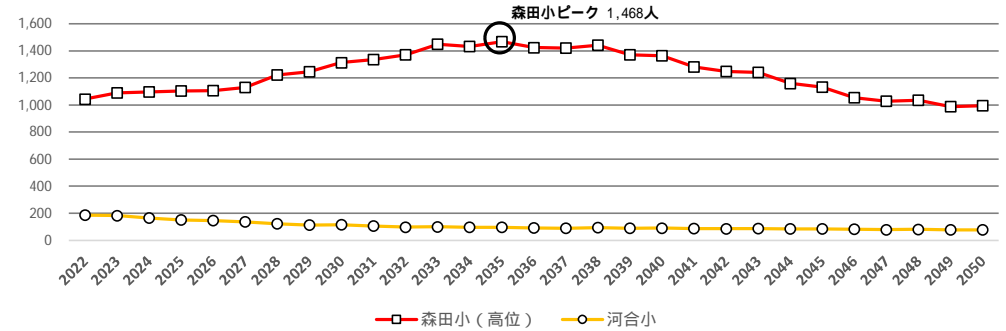
今の森田小学校には1,000人を超える子どもたちが通っています。10年後にはさらに400人ぐらい増えそうなんです。

これだけの子どもたちが一緒に学校で過ごす、「体育館を授業で使えないことも…」

「校舎も狭くてきゆうくつ…」など、学習環境として望ましくありません。

なので、増築で教室を増やすのではなく、**小学校自体を2つに分けることが、子どもたちにとって大切なんです！**

ここ10年間における人口変化の推移を反映させた「コーホート変化率法」という手法を用い、将来的な人口予測を行いました！



児童・生徒数の予測結果 = (上) 森田・河合小学校の児童数 (下) 森田・灯明寺中学校の生徒数

森田小 2校分割へ

現森田中を小学校へ改修方針

市は、学校整備の具体的方策について、森田小学校で5つの案、森田中学校で4つの案を提案しました。

これを受け策定委員会では、今後の児童・生徒数の推移や施設の現状などを整理しながら、具体的な方策について議論しました。

その結果、森田小学校の児童数は、当面の間、適正規模の上限とされる1000人を超えることが予想され、この状況を解消するため、2校分割の方向性を示しました。

2校化にあたっては、現在の森田中学校を小学校に改修することが最も実現性が高く、これにより、中学校はJR北陸本線の西側に移転新築する方向で意見が一致しました。

併せて、新築される中学校については、現在、灯明寺中学校に通う河合地区の生徒が通学できるように、校区を変更することも検討していくこととなりました。

小学校の具体的方策

増築	×
改築	×
校区の変更	×
新設	○
現中学校の改修	○

中学校の具体的方策

増築	
改築	
校区の変更	×
移転新設	○

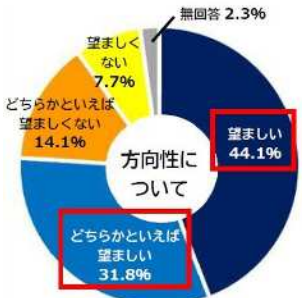
各学校における具体的方策の検討結果

小学校2校化 「76%」が望ましい

策定委員会で整理した具体的な方向性について、子育て世代を中心とした森田・河合両地区2000世帯に対してアンケート調査を実施し、約50%の住民の方から回答を得ました。

結果として、森田地区の学校の整備方針について「望ましい」との回答が約76%を占めました。

への校区変更については、「どちらでもかまわない」の回答を含め、約85%の住民の方が「新しい中学校に通学する」とする結果となり、全体として策定委員会で示した規模適正化に向けた具体的な方向性は「望ましい」と回答する人の割合が高いことが確認できました。



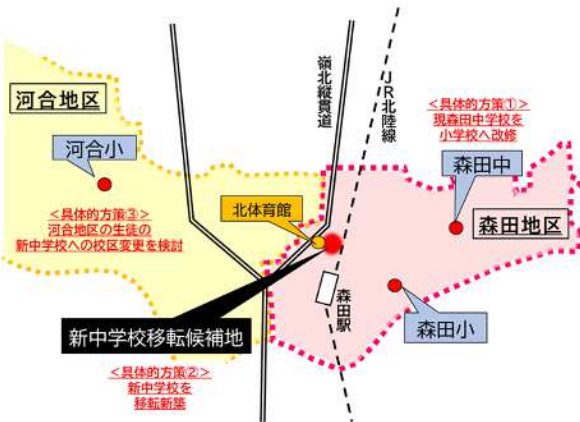
住民アンケート結果の抜粋 = (左) 森田地区向け (右) 河合地区向け



コラム Colum 3 校区って本当に変更できない？

森田小の子どもたちの一部を、河合小に校区変更すれば、小学校の2校化はしなくていいのでは？

住民の同意を得られれば校区変更は可能です。しかし、仮に同意を得られても、森田地区で増加する子どもたちが多すぎて、**河合小学校の空いている教室では全児童が入りきれないので、実際には校区が変更できても森田小学校の問題は解決できないのです…**



北部地域における規模適正化のイメージ図